



全国手話言語市区長会

手話劇祭

2018.10.28 福島県郡山市中央公民館



開催概要

日 時	平成30年10月28日（日） 午前の部10：30～12：30 午後の部14：00～16：10
会 場	福島県郡山市中央公民館 多目的ホール（郡山市麓山一丁目8番4号）
主 催	全国手話言語市区長会
主 管	全国手話言語市区長会手話劇祭実行委員会
目 的	全国手話言語市区長会の取り組みとして、手話文化や手話の魅力を広めていくことが大切であり、普段、手話劇等の手話文化に触れる機会が少ない地方都市において手話劇祭を実施し、手話文化の自治体の発信のあり方や事業効果を検証する。
来 場 者 数	約700人
特 別 協 賛	日本財団
特 別 協 力	一般財団法人 全日本ろうあ連盟
後 援	手話を広める知事の会／社会福祉法人全国手話研修センター 一般社団法人全国手話通訳問題研究会／一般社団法人日本手話通訳士協会 全日本ろう者演劇協会／一般社団法人福島県聴覚障害者協会 福島県手話サークル連絡協議会／福島県手話通訳問題研究会／郡山市教育委員会 郡山市議会／社会福祉法人郡山市社会福祉協議会／NPO法人郡山市聴力障害者協会 手話サークル「こおりやま」／福島県手話通訳問題研究会郡山班 福島県中途失聴・難聴者協会郡山支部／要約筆記「こおりやま」

タイムスケジュール

午前の部

午後の部

9：45	開場／受付	13：15	開場／受付
10：30	開会 主催者あいさつ 開催地あいさつ 来賓祝辞 祝電・祝文紹介	14：00	開会 主催者あいさつ 開催地あいさつ 来賓祝辞 祝電・祝文紹介
11：00	オープニングイベント 手話歌「ふるさと」	14：30	講演 『私たちの尊敬するろう先人たちの よもやま話』
11：10	手話スピーチ 「手話とともに」	15：00	手話影絵 『うらしまたろう』
11：20	手話影絵 『うらしまたろう』	15：25	手話劇 『（ある駅での出来事） いつでも、どこでも、だれにでも...』
11：45	手話劇 『（ある駅での出来事） いつでも、どこでも、だれにでも...』	16：10	閉会
12：30	閉会		

主催者あいさつ

全国手話言語市区長会 会長 たおか 田岡 かつすけ 克介 石狩市長



皆さんこんにちは。全国手話言語市区長会、会長の石狩市長田岡克介です。本日は、郡山市はもとより、全国各地から全国手話言語市区長会主催の手話劇祭にお越しいただきありがとうございます。多数のご来場に心より感謝を申し上げます。

当会は、「手話は言語である」という認識を地域社会、そして日本全体に広めるため、その想いに共感する全国の各市と東京都の特別区の首長が加盟し、平成28年6月に発足いたしました。

郡山市の品川市長には発足当初から副会長を務めていただき、会務にご尽力をいただいているところでございます。発足当初は250市区の加盟でありましたが、現在では532市区まで増えてきており、全国各地で手話言語に関する認識が広がっていることを感じ、大変喜ばしく思っております。

さて、本日開催します手話劇祭は、手話の普及にとどまらず、手話言語から生まれる文化やその魅力を地方都市でも触れることをねらいとして、全国手話言語市区長会が昨年からは実施しているもので、第1回目の手話劇祭は石狩市において開催させていただきました。

私も昨年、初めて手話劇というものを拝見しました。表現に大きさや強弱があり、日頃、ろう者の方と会話するときの手話とは少し違うように感じましたが、手話表現にはさまざまな手法があるということに改めて実感いたしました。

今日は、聞こえない世界から生まれる世界観や感性に触れ、ご来場の皆さまにとって新たな発見や手話を身近に感じるきっかけとなっただけであれば幸いです。

最後になりますが、本日の手話劇祭に特別協力をいただきました「全日本ろうあ連盟」様、また、特別協賛として、本事業に対し助成くださいました「日本財団」様のお力添えに、この場を借りて感謝を申し上げます。

以上、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

全国手話言語市区長会 手話劇祭

手話劇 午前/午後
千葉ろう者劇団九十九 公演
演目
【ある歌での出来事】
いつでも どこでも だれにでも…
※オラショウロ一部は情報提供がない場合があります。

記念講演 午後
「私たちの尊敬するろう先人たちのよみやま話」
講師：千葉ろう者劇団九十九代表 植野 慶也

手話影絵映像 午前/午後
千葉ろう者劇団九十九
映像「うらしまらう」

ところ 郡山市中央公民館・多目的ホール

とき 平成30年10月28日(日)
午前の部/10時30分～ 午後の部/14時00分～
(受付 9時45分～) (受付 13時15分～)

申し込み 要
全国手話言語市区長会 手話劇祭実行委員会
事務局/郡山市学芸福祉課総合福祉課内 電話(024)924-2381
〒970-0011 郡山市南1-1-1 電話(024)933-2390 FAX(024)924-2381

入場無料 事前のお申し込みが必要です。●手話通訳、要約筆記、託児あり(無料)

●主催/全国手話言語市区長会 ●特別協力/一般財団法人 全日本ろうあ連盟 ●特別協賛/日本財団

●後援/学研広域共同研究の会 社会福祉法人全国手話指導センター 一般社団法人全国手話通訳研究協会 一般社団法人日本手話通訳協会 全日本ろうあ連盟 一般社団法人福島県ろうあ教育協会 福島県手話サークル連絡協議会 福島県手話通訳研究協会 郡山市教育委員会 郡山市議会 社会福祉法人郡山市社会福祉協議会 NPO法人郡山市聴覚障害者協会 手話サークル(おこやま) 福島県手話通訳研究協会 福島県中津川聴覚障害者協会 要約筆記(おこやま)



本事業は日本財団からの助成を受けて実施しました。

開催地あいさつ

しながわ まさと
全国手話言語市区長会 副会長 品川 万里 郡山市長



第2回全国手話劇祭が、多くの皆様をお迎えし、ここ郡山市において盛大に開催くださいますことを33万3千市民とともに心から歓迎を申し上げます。

また、全国手話言語市区長会をはじめ関係団体の皆様におかれましては、日頃より、手話言語法制定を目指し、相互の情報交換並びに機運醸成にかかる各種活動に御尽力いただき、厚く御礼を申し上げますとともに、特別協力の一般財団法人全日本ろうあ連盟様や、特別協賛の日本財団様におかれましても、手話に対する理解と普及活動に多大なる御貢献をいただいておりますことに対し、深く感謝と敬意を表します。

さて、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から7年8月が経過しました。

発災当時、本市におきましても甚大な被害が発生し、長期化する避難生活の中、罹災証明の発行をはじめ放射能に関する相談、ライフラインの復旧状況、さらには生活に必要な物資の支給情報提供など、情報伝達とコミュニケーション手段確保の重要性が改めて浮き彫りとなりました。

特に、手話通訳については、筆談だけでは通じない情報伝達の大切さを実感しました。

このような経験も踏まえ、本市におきましては、「手話が言語である」との認識をより強くし、市全体が手話の理解に努め、ろう者が手話を使用しやすい環境づくりを推進することを決意し、2015年4月「郡山市手話言語条例」を施行したところであります。

また、著しい進化を遂げるICT機器やソーシャルネットワークサービスも、様々な障がいを取り除き、ソーシャルインクルージョン社会実現の手段として積極的にその導入に努めております。

今後におきましても、「Nothing about us without us（私たちのことを、私たち抜きで決めないで）」本的な考えのもと、全国手話言語市区長会加入の532自治体の仲間や全日本ろうあ連盟、関係団体の皆様と緊密に連携・交流し、ろう者の皆さんの一層の自立と社会参加を促進し、日常生活において安心して手話を用いることができる環境づくりを推進してまいりますので、引き続き御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、「千葉ろう者劇団九十九」の皆様による手話劇をご覧いただき、手話の持つ豊かな表現と素晴らしい芸術の世界に触れていただきますとともに、明治初期に全国から人、物、技術が結集し、成し遂げた「安積開拓」と「安積疏水」事業の恵みである美味しい産物もお楽しみいただき、旅の思い出としていただければ、幸いに存じます。

結びとなりますが、本日の手話劇祭の開催にあたり、特別協力をいただきました「一般財団法人全日本ろうあ連盟」、また、特別協賛として、本事業に対し助成くださいました「公益財団法人日本財団」のお力添えに感謝申しあげますとともに、本日御来場いただきました皆様の御健康と御多幸を御祈念申しあげ、開催地代表の挨拶といたします。



祝文・祝電ありがとうございました

熊本県熊本市長	大西	一史	様
兵庫県姫路市長	石見	利勝	様
岐阜県各務原市長	浅野	健司	様
大阪府四條畷市長	東	修平	様
京都府長岡京市長	中小路	健吾	様
千葉県市川市長	村越	祐民	様

来賓あいさつ

いしの ふじさぶろう

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 石野 富志三郎 理事長



全国手話言語市区長会主催の「手話劇祭」がここ福島県郡山市で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

当連盟では2010年より「日本手話言語法」制定のための調査・研究に取り掛かりました。

手話の言語としての認知、そしてろう者や手話への理解は自治体の首長、関係者にも広がり、2016年には首長の皆様を中心とした貴会及び手話を広める知事の会が設立されました。

現在では500を超える市町が貴会に加盟をされており、この結束は当連盟の「手話言語法制定推進事業」を進めるに大きな力となっています。

また、国へ法制定の要望を進める中で、各地で手話言語条例制定の取り組みが広がり、10月4日現在で193自治体で手話言語条例が制定されています。その内、約90自治体はこの1年で制定されたものであり、手話言語への理解が急速に広まっている証と言えます。

ここ郡山市でも2015年に「郡山市手話言語条例」が制定されました。手話の普及、手話通訳者の養成、学校や医療機関における手話の普及または災害へ取り組みなどに努めることなどが盛り込まれ、市民へ手話を広める活動が進められていることと思います。

そのような中、ここ郡山市で第2回「手話劇祭」が開催されることを大変うれしく思います。改めて心より御礼申し上げます。

手話劇は手話によりろう者自身が聞こえない世界を豊かに表現する芸術であり、ろう者の文化活動の一つです。

本日は昭和58年から活動を続けている「千葉ろう劇団 九十九」が出演されるということで、楽しみにしてまいりました。

ご参加の皆様も、本日は手話という豊かな言語に触れ、ろう者による芸術文化をぜひお楽しみください。

「手話劇祭」開催にあたり、ご尽力いただきました全国手話言語市区長会および郡山市ほか、関係の皆様へ厚くお礼を申し上げますとともに、ご参集の皆様のますますのご健勝を祈念して、私の挨拶といたします。

よしくら かずひろ

日本財団 吉倉 和宏 常務理事



皆様おはようございます。

今、ご紹介にあずかりました日本財団の吉倉和宏と申します。

今日、ご挨拶させていただくのは、本当に一言、皆様に劇を楽しんでいただきたいという一点につきます。

今日は「手話劇祭」のお祭りですので、ぜひとも楽しんでほしいというのが一番のポイントだと思っております。

日本財団では手話を言語とする方々が、普通に手話で暮らせる社会の実現を目指してさまざまな事業を実施しています。

全日本ろうあ連盟様と共に活動する中で、ぜひともこの動きを広めていきたいと思っております。

手話で普通に暮らせる社会は、手話で喜びを表現し、そして手話で怒りを表現し、手話で悲しみを分かち合い、手話で楽しみをシェアし共有する。

そんな社会ができればと思っております。

この喜怒哀楽の今日は「楽」楽しみをみんなで共有する場であります。

ぜひともこの楽しみをここだけではなく、お持ち帰りいただいてじんわり温めていただくのも一つかと思っています。

この手話を楽しみながら、そしてそれを多くの方と共有することに関しましては、今、お話の中で出てきておりますが、石狩市の田岡市長やここ地元の郡山市の品川市長が牽引してくださっている全国手話言語市区長会、この活動をさらに広げることになりますし充実することになります。

それによってさらに多くの日本にいる手話を言語とする方々が、さらに手話で生活できる社会に近づいていくものだというふうに考えております。

ぜひ今日は、楽しんでいただき、そしてそれをお持ち帰りいただいて、あんまり怪しまれない程度に家でもニヤニヤしていただきながら、今後の手話、更なる充実、啓発に御理解いただけたらと思っております。

ぜひ今日は一緒に楽しみたいと思っております。よろしく申し上げます。

オープニングイベント

郡山市立芳山小学校 4年生・6年生による手話歌「ふるさと」（嵐）



みなさん、こんにちは。
私たちは、郡山市立芳山小学校6年生、4年生です。
今年、6月23日土曜日、手話講座が開かれ手話を学びました。
聴覚障がい者とは？生活の中でどんなことに困るのかを知り、手話であいさつや自己紹介も
できるようになりました。手話が大切なコミュニケーションだと分かりました。
もっと手話ができるようになりたいです。
みんなが、手話で話せるまちを目指して！！

手話スピーチ

「手話とともに」福島県立田村高等学校3年 柏原 力樹 さん



私は、幼い頃から地域の手話サークルに通っています。母に連れられて初めてサークルに行ったとき、私はとても驚きました。たくさんの人たちが口で会話をするのではなく、手を使って会話をしているのです。母から、「ここにいる人は耳が聞こえないから手話を使って会話をしているのよ。」と説明はされましたが、私はその言葉の意味を理解することができませんでした。幼い私には、まず、耳の聞こえない人がいる、声の出せない人がいる、ということが、理解できなかったのです。

小学校三年生のとき、学校の授業で手話について調べることがありましたが、そのときの私は、逆の意味で驚きました。身の周りにろう者がいないために手話を知る機会はないとしても、テレビのニュース番組などで手話通訳をしている人は、だれでも見たことがあるだろうと思っていましたが、クラスの友達に「手話ってなんですか？」と次々に質問したのです。担任の先生が手話について説明しても、クラスで理解できた人はほとんどいませんでした。私は、このとき初めて、手話は人々の日常にはないものだと知りました。手話サークルで、学校であったことをろう者の方に話すと、「手話を知っている人は多くても、手話ができる人は少ないの。できる仕事も限られるのよ。」と言われ、悲しくなりました。ろう者の方は人とコミュニケーションをとるサービス業や国語力を必要とする仕事に就くことが難しいと言われ、やりたいことができなくなってしまうのかと思いました。

そんな私の考えを変えることがありました。中学生のとき、部活動でやっている剣道について調べていて、こんな文章に出会ったのです。

「私はろう者ですが、十年以上剣道をやっています。耳が聞こえないからという理由で最初は止められましたが、周りの人の意見を押し切り、続けています。」

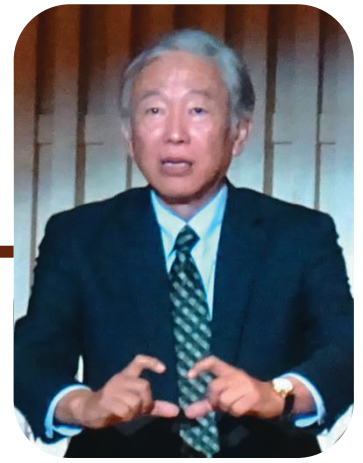
この記事を見つけたとき、私はとてもうれしく思いました。剣道は自分で打った技を叫ばなくてはなりません。ろう者の方は声も出しづらい人も多いと思っていたので、剣道をやっている人はいないと思っていました。その方は、試合に出場することはできませんが、楽しく剣道をしていると書いていました。私は、自分の限界を決めず、やりたいことを一生懸命している姿に感動しました。

私は、将来、特別支援学校教諭になりたいと考えています。特別支援学校には、もちろん、ろう者だけでなく視覚や四肢に障がいのある人や、障がいが見た目では分からない人などたくさん子どもたちが来ます。授業の仕方や生徒との接し方もさまざまだと思います。その中でも、私は特に、子どもたちにあきらめられない大切さを伝えたいと思います。〈略〉

講演

「私たちの尊敬するろう先人たちのよもやま話」

千葉ろう者劇団九十九 演出家 ^{うえの}植野 ^{けい}慶也 氏



プロフィール

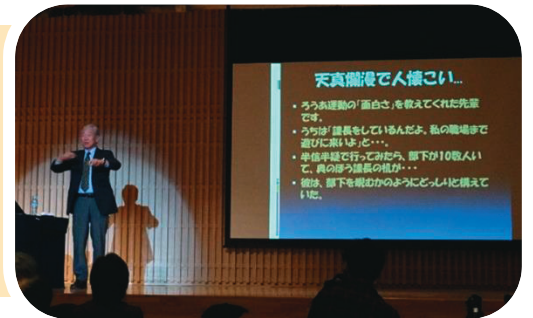
昭和29年生まれ(和歌山)、一歳前に失聴。
筑波大学附属ろう学校卒、東京農業大学卒
社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会理事長
日本手話研究所 研究員



講演内容のあらまし

戦前や戦後にかけて手話通訳制度といった福祉制度がまだできていない時世の中で、たくましく生き抜いたろうあの方先人たちを数人紹介した講演でした。

戦前において歯科医師として活躍されたろう者、戦後に漫画家として活躍されたろう者、富士山に登山された最高齢の横綱としてランクされたのはろう高齢者であったなどのエピソードを交えての話でありました。



アトラクション

手話影絵

「うらしまたろう」

「うらしまたろう」の映像は、手話の影絵と切り絵を組み合わせで作っています。
60枚以上に及ぶ切り絵を一人の画家のろう者(劇団九十九)が全て制作しました。
手話の演技についても部屋全体を暗くした中で劇団九十九のメンバーが担当しました。



「（ある駅での出来事）いつでも、どこでも、だれにでも・・・」

手話劇と映像をひとつの舞台空間に演出した画期的な試みに挑戦した芝居でありました。舞台の出演者はすべてろう者であり、それぞれ個性的な手話で役柄を演じていました。どんなときでも手話で意思疎通ができるようになって欲しいとの願いを込めての内容であって、その熱意が観客にも伝わるものでありました。

ちば しやげきだん つくも

千葉ろう者劇団九十九

1983年1月に設立。

演出、脚本、脚色、舞台美術など、ろう者自身による手づくりの芝居創造を得意とし、日舞手話劇、民話劇、手話落語、ミュージカル劇などその演目は多彩にわたる。

国内では、国民文化祭に千葉県代表として二回出演。

海外は、世界ろう者演劇祭典（ヘルシンキ）に日本代表として参加。

モスクワでの海外公演は、単独劇団としては日本初と言われている。

九十九は、「百まであとひとつ・・・」とあくなき探究心で取り組んでいます。

活動歴・出演歴

1987年 第10回世界ろう者演劇祭典（フィンランド／ヘルシンキ）

1987年 日ソろうあ交流会&演劇の競演（ソビエト連邦／モスクワ）

1991年 第6回国民文化祭（千葉県）

1987年 第11回世界ろう者演劇祭典（東京都）

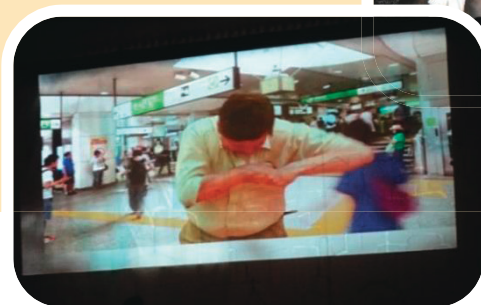
1993年 創立10周年記念公演（千葉県）

1998年 第13回国民文化祭（大分県）

1993年 創立10周年記念公演（千葉県）

2003年 創立20周年記念公演（千葉県）

2013年 創立30周年記念公演（千葉県）



担 当	氏 名	担 当	氏 名
演出・脚本	植野 慶也	出演	椎名志津子
舞台美術	柏木 信博	出演	佐藤 博美
舞台監督	清本 真二	出演	中島 晶子
舞台助監督	山下 二郎	出演	関内 賢二
舞台助監督	田中 晴美	出演	植野 慶也
照明	福井 秋男	出演	佐藤 近延
音響	山下 二郎	出演	橋澤 加津人
映像	近藤 玄隆	出演	増田 伸也
字幕操作	藤井 さやか	声吹替	美里 流李
衣装	米田 一江	声吹替	横手 晴美
声吹替	山口 千春	声吹替	宮 由紀子
コーディネーター		声吹替	三橋 俊一
		声吹替	光永 勝典
		声吹替	印東 一雄

あらすじ

ある大きな駅での出来事。

改札口でろう者が突然倒れ、意識不明となった。

居合わせたろう者の友人たちが駅員に筆談で必死に伝えるも、駅員たちの対応が遅い。ろう者たちは必死に人命救助を訴え続ける。

目の前に「AED」という救命措置装置があるのに誰も触ろうとしない。その日は土曜日の夜であり、ろう者は手話通訳を呼ぶ方法が分からずパニック状態に陥る。

結局、倒れたろう者は亡くなってしまった。

ろう者の友人たちは駅員の対応に納得がいかないため、千葉聴覚障害者センターの相談員に相談。相談員が調査に乗り出したところ、いくつかの課題が浮かび上がった。この調査報告を聞いた関係者たちは愕然とする。

ところが、ここでタイムスリップが起き、意外な展開となってしまう。いったい何が起きたのだろうか…。

(実際に起きた通訳等のトラブルの話の一部をベースにしたストーリーであるが、個人名や場所等はフィクションと設定している)

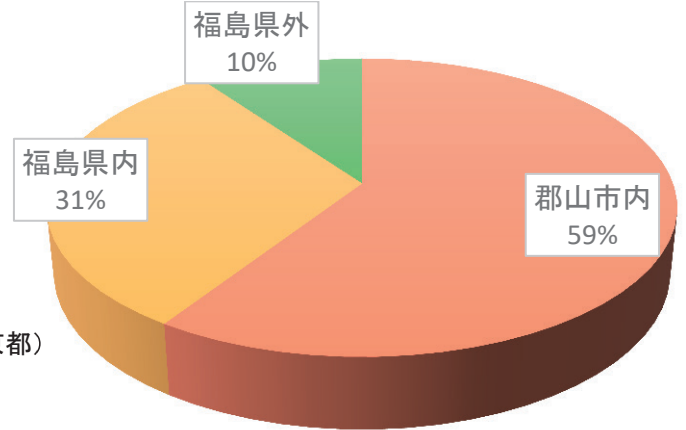


来場者アンケート

【回答者 432人】

居住地

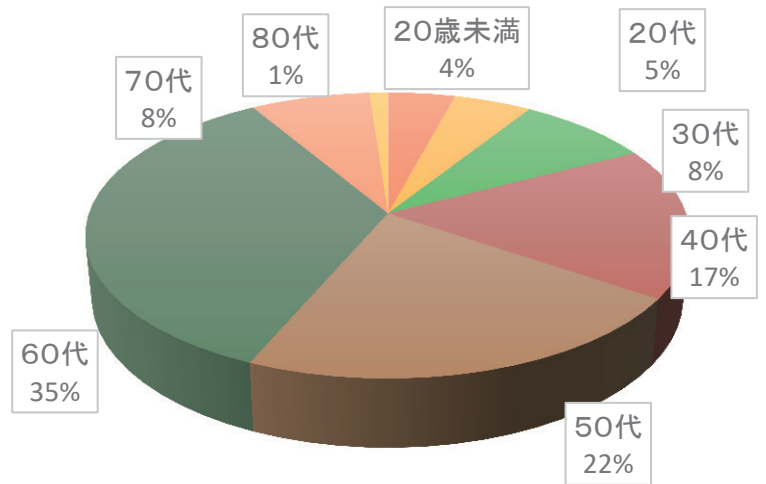
区分	人数
郡山市内	256
福島県内	133
福島県外	43



(福島県外...岩手県、秋田県、山形県、栃木県、千葉県、東京都)

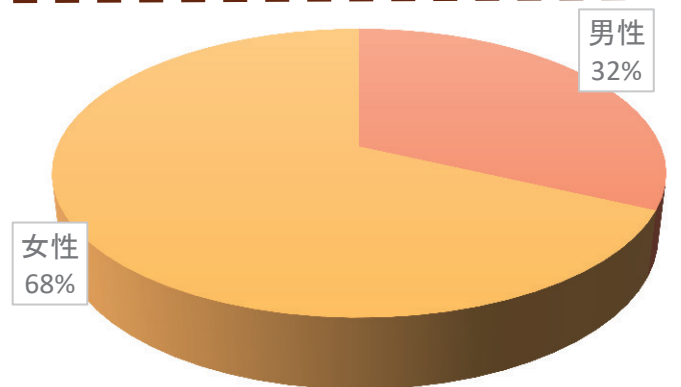
年代

区分	人数
20歳未満	18
20代	21
30代	36
40代	74
50代	95
60代	151
70代	32
80代	5



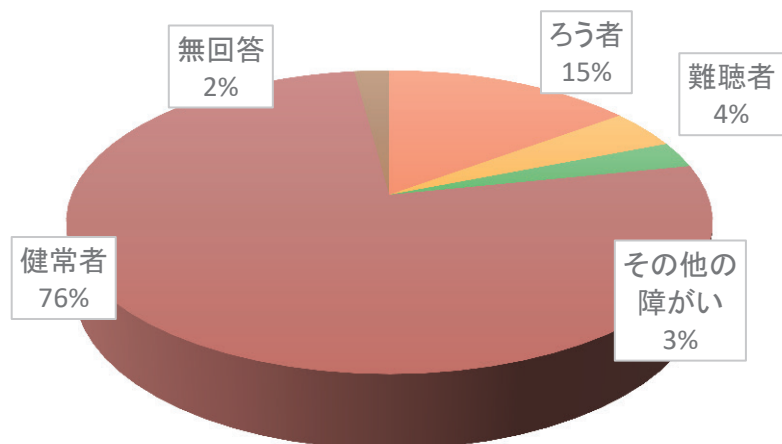
性別

区分	人数
男性	138
女性	294



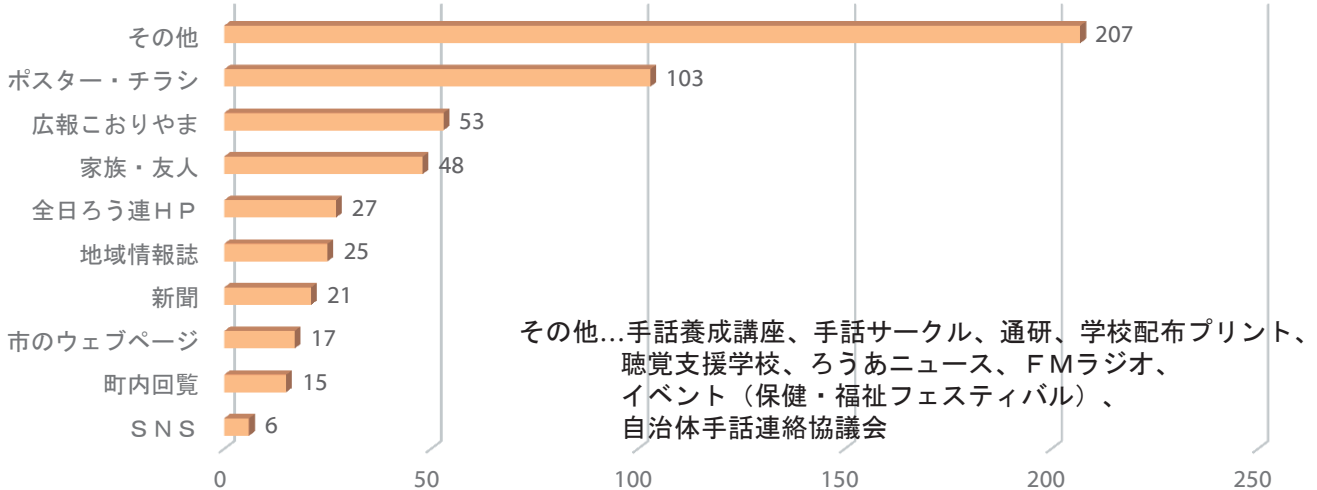
状況

区分	人数
ろう者	64
難聴者	18
その他の障がい	12
健常者	329
無回答	9

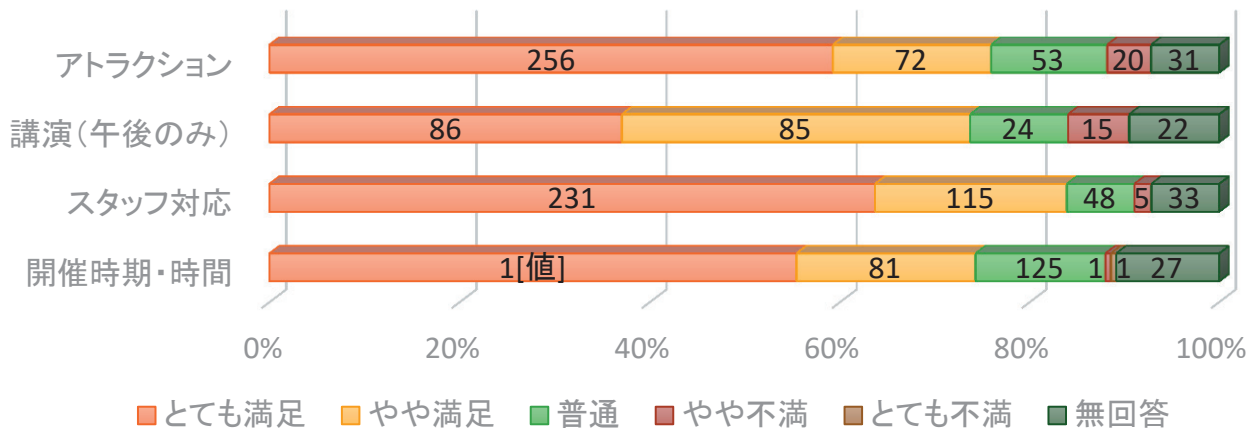


開催情報

【回答者432人：複数回答】



満足度



感想等

- ◆ 手話劇が新しい表現方法を取り入れていたので良かったです。
- ◆ 手話劇とても素敵でした。手話をもっと上手になりたいと思いました。
- ◆ 手話の必要性について、これほど強く感じたことはありませんでした。
- ◆ 通訳者やボランティアの方が増え、市民の方も偏見の気持ちをなくし、同じ人として温かくサポートしてもらえたら良いと思います。
- ◆ 手話の繁栄を祈るとともに手話をもっと勉強したいと思います。
- ◆ ろう者の現状、AEDの実態など知らなかったことがあり衝撃的でした。手話を学びたいと思いました。
- ◆ 楽しく過ごすことができました。郡山市の手話の認知度の大きさに感心しました。当市もこのように発展してくれることを願います。
- ◆ 将来は、手話関係の仕事をしたいと思っていますので勉強になりました。
- ◆ 手話の分からない子どもが一緒だったので、音声がある等、始めに知りたかったです。
- ◆ 柏原さんのスピーチを拝見して、とても感動しました。手話劇を広げていくには健聴者の参加がもっと必要だと思った。
- ◆ 柏原さんのスピーチを「生」で聞いて、とてもよかった。健聴者の参加が少ないと感じた。どうしたらいろんな人達に参加してもらえるか？何か工夫が必要だ。
- ◆ 芳山小学校の手話歌に感激しました。どこでもいつでも自由に手話がみかけられるようになれば良いと思う。



発行 全国手話言語市区長会手話劇祭実行委員会
 編集 全国手話言語市区長会手話劇祭実行委員会事務局
 郡山市保健福祉部障がい福祉課
 〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号
 電話：024-924-2381 FAX：024-933-2290
 E-mail:shougaiukushi@city.koriyama.lg.jp



紙へリサイクル可

この印刷物は、FSC®認証紙を使用しています。